

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第38期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業グループ管理本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業グループ管理本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第2四半期 連結累計期間	第38期 第2四半期 連結累計期間	第37期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	384,479	230,873	781,215
経常損失 () (千円)	32,924	252,326	155,747
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失 () (千円)	45,510	254,584	167,319
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	45,510	254,584	167,319
純資産額 (千円)	2,041,693	1,891,179	2,145,763
総資産額 (千円)	3,169,770	2,630,600	2,988,314
1株当たり四半期(当期) 純損失 () (円)	5.40	29.18	19.82
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	64.3	71.7	71.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	92,500	163,806	243,935
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	9,876	9,178	593,279
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	52,739	67,090	126,320
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,299,921	1,250,324	1,491,808

回次	第37期 第2四半期 連結会計期間	第38期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	0.09	14.90

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、診断・試薬事業及び検査事業における売上高の落ち込みが大きく影響し、売上高は230,873千円（前年同期比40.0%減）となりました。販売費及び一般管理費においては、遺伝子組換えカイコ事業での抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発の研究の進捗に伴い研究開発費が増加しております。その結果、営業損失は209,844千円（前年同期は37,512千円の営業損失）となりました。また営業外損益につきましては、持分法による投資損失40,103千円を計上したこと等により、経常損失は252,326千円（前年同期は32,924千円の経常損失）となりました。特別損益につきましては、持分法適用会社の持分割合変動により持分変動利益4,390千円が発生しております。その結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は254,584千円（前年同期は45,510千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

・診断・試薬事業

研究用試薬関連の売上高につきましては、抗体製品及び試薬受託の売上はほぼ前年並みを維持しておりますが、主力のEIAキットは海外販売におきまして、CRO向けの大型プロジェクトの終了等により前年に比べ大幅に減少し、また、EIAキットの国内販売におきまして、試薬市場の停滞の影響や新製品上市等の遅れにより、前年同期と比べ減少しております。

医薬用関連の売上高につきましては、主力である動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット（BSEキット）の需要縮小の影響や欧州向けに原料供給をしている製品の販売が減少したことにより、前年に比べ大幅に減少しております。

その結果、当セグメントの売上高は172,576千円（前年同期比35.0%減）、営業損失は39,228千円（前年同期は42,072千円の営業利益）となりました。

・遺伝子組換えカイコ事業

当事業においては、各種抗体や受託等の売上が計上されましたが、現段階においては遺伝子組換えカイコを用いた医薬品製造を実現させるべく、前期に引き続き抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発、ならびに、その製造技術の開発を進めているところであり、事業の重点を研究開発に置いております。また、「抗HIV抗体及びその製造方法」に関する国内特許の共同出願手続きを完了しており（2019年9月17日開示『「抗HIV抗体及びその製造方法」に関する特許出願のお知らせ』参照）、当該研究については着実にその成果に向けて進捗しております。

その結果、当セグメントの売上高は17,473千円（前年同期比47.5%増）、営業損失は145,773千円（前年同期は100,378千円の営業損失）となりました。

・検査事業

当事業においては、主力事業の血中リポタンパク質プロファイリングサービス「LipoSEARCH」において、前期に受注した大型案件がなく、比較的小型の案件の受注に留まっております。この結果、前年同期と比較して売上が減少しております。一方で、動物向けサービスの「LipoTEST」においてはほぼ前年並みの売上を維持しております。主要顧客である国内製薬企業、食品企業への継続的なアプローチ、ELISA測定受託サービスの拡販、自由診療領域への展開、海外導出に向けた取り組み等に注力しております。

その結果、当セグメントの売上高は38,645千円（前年同期比46.0%減）、営業損失は12,534千円（前年同期は12,081千円の営業利益）となりました。

・化粧品関連事業

当事業においては、「ネオシルク - ヒト型コラーゲン」配合化粧品「フレヴァン」シリーズにつきましては、国内通信販売の売上が前年同期とほぼ前年並みの売上となりましたが、中国向けの販売が、本格的に再開していないため（2019年9月27日開示「完全子会社の株式会社ネオシルク化粧品における中国向け販売について（経過報告）」参照）、前年同期と比べ大幅に減少しております。

その結果、当セグメントの売上高は4,491千円（前年同期比87.9%減）、営業損失は12,788千円（前年同期は8,231千円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比12.0%減の2,630,600千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

現金及び預金が238,483千円減少したこと、受取手形及び売掛金が103,810千円減少したこと、及び投資有価証券が35,713千円減少したこと等によるものであります。受取手形及び売掛金の減少につきましては、当第2四半期連結累計期間の売上が減少していること、現金及び預金の減少につきましては当第2四半期累計期間において親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと等により収入より支出が多かったこと、投資有価証券の減少につきましては、持分法適用関連会社の投資損失等の計上によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比12.2%減の739,421千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

借入金の返済により、1年内返済予定長期借入金及び長期借入金が66,136千円減少したことや、未払債務の減少により、その他(流動負債)が37,700千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比11.9%減の1,891,179千円となりました。

この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により繰越利益剰余金が254,584千円減少したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は前連結会計年度末と比べ241,483千円減少し、1,250,324千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は163,806千円(前年同期は92,500千円の支出)となりました。

この主な要因は、売掛債権の減少(回収)103,810千円、持分法による投資損失40,103千円といった資金増加要因の一方、税金等調整前四半期純損失248,173千円の計上が資金支出の大きな要因となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は9,178千円(前年同期は9,876千円の支出)となりました。

この主な要因は、定期預金等の預入による支出9,000千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は67,090千円(前年同期は52,739千円の支出)となりました。

この主な要因は、長期借入金の返済による支出66,136千円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は136,024千円であります。

(6) 主要な設備

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,724,590	8,724,590	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社にお ける標準となる株式
計	8,724,590	8,724,590		

(注) 提出日現在発行数には、2019年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月30日		8,724,590		2,792,510		1,824,890

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
清藤 勉	群馬県高崎市	1,123,700	12.88
株式会社トランスジェニック	福岡県福岡市中央区天神2丁目3番36号	205,000	2.35
岩井化学薬品株式会社	東京都中央区日本橋本町3丁目2-10	200,000	2.29
中沢 和美	神奈川県藤沢市	131,600	1.51
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2丁目12-6	100,000	1.15
BARATI RAHIM	東京都大田区	100,000	1.15
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	80,600	0.92
平井 康裕	群馬県邑楽郡千代田町	73,050	0.84
吉川 一	三重県津市	53,000	0.61
小野寺 昭子	埼玉県越谷市	50,000	0.57
計	-	2,116,950	24.27

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,719,500	87,195	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,990		
発行済株式総数	8,724,590		
総株主の議決権		87,195	

(注) 「単元未満株式」には自己株式が30株含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市 中字東田 1091番地1	1,100		1,100	0.01
計	-	1,100		1,100	0.01

2 【役員 の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,543,966	1,305,482
受取手形及び売掛金	208,985	105,175
商品及び製品	91,509	91,616
仕掛品	127,215	138,935
原材料及び貯蔵品	118,769	130,714
その他	21,332	14,635
流動資産合計	2,111,776	1,786,559
固定資産		
有形固定資産		
土地	114,019	113,781
有形固定資産合計	114,019	113,781
投資その他の資産		
投資有価証券	686,555	650,841
繰延税金資産	4,437	
その他	71,525	79,417
投資その他の資産合計	762,517	730,258
固定資産合計	876,537	844,040
資産合計	2,988,314	2,630,600
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,784	2,661
1年内返済予定の長期借入金	108,956	75,820
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	277,704	277,704
賞与引当金	18,189	20,220
その他	140,787	103,087
流動負債合計	550,422	479,493
固定負債		
長期借入金	86,000	53,000
転換社債型新株予約権付社債	200,000	200,000
退職給付に係る負債	6,128	6,927
固定負債合計	292,128	259,927
負債合計	842,550	739,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,792,510	2,792,510
資本剰余金	1,824,890	1,824,890
利益剰余金	2,474,056	2,728,640
自己株式	1,990	1,990
株主資本合計	2,141,355	1,886,771
新株予約権	4,408	4,408
純資産合計	2,145,763	1,891,179
負債純資産合計	2,988,314	2,630,600

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	384,479	230,873
売上原価	162,614	121,138
売上総利益	221,865	109,734
販売費及び一般管理費	259,378	319,579
営業損失()	37,512	209,844
営業外収益		
受取利息	38	35
受取配当金	600	600
受取ロイヤリティ	335	353
為替差益	5,466	
その他	573	510
営業外収益合計	7,013	1,499
営業外費用		
支払利息	710	502
新株発行費	1,695	954
為替差損		2,420
持分法による投資損失		40,103
その他	20	
営業外費用合計	2,426	43,981
経常損失()	32,924	252,326
特別利益		
持分変動利益		4,390
特別利益合計		4,390
特別損失		
減損損失	8,255	237
特別損失合計	8,255	237
税金等調整前四半期純損失()	41,180	248,173
法人税、住民税及び事業税	4,330	1,972
法人税等調整額		4,437
法人税等合計	4,330	6,410
四半期純損失()	45,510	254,584
親会社株主に帰属する四半期純損失()	45,510	254,584

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純損失()	45,510	254,584
四半期包括利益	45,510	254,584
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45,510	254,584
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	41,180	248,173
受取利息及び受取配当金	638	635
支払利息	710	502
為替差損益(は益)	4,161	1,408
新株発行費	1,695	954
持分法による投資損益(は益)	-	40,103
持分変動損益(は益)	-	4,390
減損損失	8,255	237
売上債権の増減額(は増加)	34,961	103,810
たな卸資産の増減額(は増加)	34,034	23,773
仕入債務の増減額(は減少)	4,222	2,123
未払金の増減額(は減少)	19,381	27,796
未収消費税等の増減額(は増加)	1,297	7,724
その他	29,244	7,565
小計	88,536	159,717
利息及び配当金の受取額	635	633
利息の支払額	673	461
法人税等の支払額	3,926	4,261
営業活動によるキャッシュ・フロー	92,500	163,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	9,000	9,000
その他	876	178
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,876	9,178
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	10,000	-
長期借入れによる収入	30,000	-
長期借入金の返済による支出	91,044	66,136
その他	1,695	954
財務活動によるキャッシュ・フロー	52,739	67,090
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,161	1,408
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	150,954	241,483
現金及び現金同等物の期首残高	2,450,875	1,491,808
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,299,921	1,250,324

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) のれんの償却方法及び償却期間 のれんの償却については、その効果の発現する期間を個別に見積り、その見積り期間に応じて均等償却しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	4,020千円	千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
賞与引当金繰入額	5,639 千円	7,176 千円
研究開発費	92,695 "	136,024 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	2,365,075千円	1,305,482千円
預入期間が3か月を超える定期預金	65,153 "	55,157 "
現金及び現金同等物	2,299,921 "	1,250,324 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第2四半期連結累計期間において第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使に伴い、87,000株の株式が増加しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ34,713千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,671,015千円、資本剰余金が1,703,395千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	264,673	11,682	71,002	37,122	384,479		384,479
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,017	166	588		1,773	1,773	
計	265,690	11,848	71,591	37,122	386,252	1,773	384,479
セグメント利益又は損失 ()	42,072	100,378	12,081	8,231	37,992	480	37,512

- (注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント利益又は損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品 関連事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	171,100	17,473	37,808	4,491	230,873		230,873
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,476		836		2,313	2,313	
計	172,576	17,473	38,645	4,491	233,187	2,313	230,873
セグメント損失()	39,228	145,773	12,534	12,788	210,324	480	209,844

- (注) 1. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. セグメント損失の調整額480千円には、セグメント間取引消去480千円が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	5円40銭	29円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	45,510	254,584
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	45,510	254,584
普通株式の期中平均株式数(株)	8,413,730	8,723,460

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社免疫生物研究所
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	桂	川	修	一	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	英	志	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。